

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：27013

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートにおいて、「ICTを活用した学習が自分に役立っている」と実感している児童が95%に達し、昨年度より増加傾向にある。</p> <p>◇「自分で決めたことを最後までやり遂げる」「難しいことにも挑戦する」といった、意欲や主体性に関する項目では、8割強の児童が肯定的に捉えている。</p> <p>◇振り返りを通じて自身の成長を感じたり、次の活動に生かそうとしたりしている児童の割合も、8～9割と高い水準にある。</p>
	<p>◇疑問や課題の解決方法を自分で考える割合が低い。 →教師が選択肢を示して選ぶ経験を積ませ、少しずつ自己決定へ委ねていく。</p> <p>◇振り返りはできているが、事前の目標設定や主体的な取り組みが弱い。 →日常の授業や学習見直し週間で目標を持たせ、AARサイクルの定着を図る。</p> <p>◇協働に関する数値が低い。 →子どもが「学びのコントローラー」を持てるよう、意図的な交流を授業に仕組む。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇他者の良さを見つけたり学校を楽しんだりする児童は多いものの、「必要とされている」という自己有用感は低い傾向にあるため、人の役に立つ喜びへの価値付けを大切にしながら自己肯定感や自己有用感を育てていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

○自走する子の育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 学校教育目標「ユー★モアにあふれる学校をめざして」の実現 →ICTを活用し、AARサイクルによる、分かる、できる楽しい授業作りの実施</p> <p>(2) 研究主題 自走する子の育成 →視点1「『～たい』の火をともし、持続させるアプローチ」 視点2「個別×協働のコーディネート」</p>	<p>①子どもが主体の活動の充実 →全校朝会で子どもたちの自主的な活動を取り入れることで、直接体験や自己決定の場を創出する。(学年、委員会コーナー) →縦割り活動で、企画・運営をすることで、学びの見通しをもつ場や失敗から学べる場の創出を図る。</p> <p>②活動を振り返る場の設定 →委員会、クラブの振り返りなどをスクールタクトで実施することで、今までの活動の反省や友達の意見が可視化でき、失敗から学べる場を創出していく。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇これまで積み上げてきた生成 AI 活用の経験をベースに、来年度は低学年からの活用にも挑戦していく。活用の負の側面にも十分配慮しつつ、「何でもAI」ではなくアナログとの使い分けを常に吟味し、本当に効果的な場面を見極めて実践を深めていく。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

